

長崎大学 大学院教育学研究科

Graduate School of Education, Nagasaki University

2026

教職大学院への誘い



教師としてジャンプアップを 目指そう！

本研究科には、学校教育の即戦力、或いはミドルリーダーとなる人材育成を目指す3つのコース（子ども理解・特別支援教育実践、学級経営・授業実践開発、教科授業実践）と学校や地域教育界のリーダーとなる人材の育成を目指す管理職養成コースがあります。これらのコースは、長崎県が直面する地域の縮小化等の今日的課題への対応や計画的な人材育成に資するために、研究者教員が持つ高い専門性と学校・教育行政の経験がある実務家教員による協働した指導体制のもと、理論と実践の往還を意識した学び合いと省察が行われています。特に各院生がテーマを掲げる実践研究では、本研究科と教育委員会・教育センター・学校現場での指導のもと、長崎県教育界が培ってきた教育の不易の部分と大学の講義等で学ぶ教育の流行を踏まえ、学校や地域といった背景も捉えながら、院生自身の教育的な課題の解決により教員としての力量を高めるとともに、その成果をもって地域教育界に貢献することを目指しています。

在学中の日本学生支援機構第一種奨学金に関する免除制度や大学独自の研究支援制度など充実した経済支援や、教職未経験学生と現職教員学生の日常的な学び合いによる人脈づくりなど本学教職大学院ならではの学習環境の中で、教師としての高みを目指しませんか。



教育学研究科長 藤本 登

入学者別の養成教員像

志願者の履歴と免許資格に応じて用意された四つの教育プログラムで養成される教員像は次のとおりです。

現職教員の場合

1年プログラム

または

2年プログラム

教師としてスクールリーダーを目指して学ぶ人のプログラム

- 強い生徒指導力と高い学習指導力を身につけ、チーム学校を先導する
- 組織論等を生かした確かな学級・学校経営力を身につける

教員免許を持っているが教職経験のない学士の場合

2年プログラム

教師としての資質・能力を高めたい人のためのプログラム

- 子どもや教職をより深く知る
- 授業実践力、指導力をつける
- 学校における課題解決に取り組む資質・能力を培う

教員免許を持っていない、あるいは他の校種の免許を取得したい学士の場合

3年プログラム

新たに教師の道を目指したい社会人や教員免許を持たない人のためのプログラム

- 2年間で教職の基礎を学ぶ
- 3年目は教職経験のない学士の2年プログラムと同じ資質・能力を身につける

- 子ども理解・特別支援教育実践コース
- 学級経営・授業実践開発コース
- 教科授業実践コース

アドミッション・ポリシー

上記3つのコースは、入学者に次の資質・素養を求めます。

- 学部教育で培った能力を発揮させ、学校教育への課題意識を持ち、問題解決に立ち向かう意欲を持っている。
- 子どもを理解する力、授業を実践する力をより高めていく意欲がある。
- 児童生徒の発達・教育に関する基礎知識・授業実践の基盤となる教科の基本的知識を持ち、基礎的な倫理性と教師に必要なコミュニケーション能力がある。
- 特に現職教員では、自己の能力向上を目指すとともに、地域教育界の充実に貢献する意欲がある。

カリキュラム・ポリシー

上記3つのコースは、次の知識の修得、資質・能力の育成、責任感等を培うためのカリキュラムの編成、学修方法、学修支援を行います。

- 生徒指導・教育相談について：的確な子ども理解力を身につけ、生徒指導・教育相談を実施できる高度な力を育成する。
- 学級・学校経営について：教育現場でリーダーシップを発揮し学校の諸機能を向上させ、学校や学級の経営に関するマネジメント能力について高い知識を修得させる。
- 教科等の実践的指導法・ICTの活用について：教科の知識・技能を獲得しICT機器等も活用して授業改善のできる優れた授業実践力と教科指導力を身につけさせる。
- 教育課程の編成と実施について：児童生徒の資質、能力、ニーズや現代的な教育課題を理解して教育課程を編成し実施できる高度な力を育成する。
- 学校教育と教員のあり方について：地域社会との連携や協働に関する学びや教育実習を通して学校教育と教員のあり方について高い知識を修得させ、教育を担う専門職としての使命感と責任感を培う。

教職実践専攻(3コース)の実習スケジュール(例)

教職実践専攻(3コース)の教育実習は、学校教育実践実習1～5の5つの実習から構成されます。これらの実習をいつ行うかは、下図のように履修プログラムによって異なります。各実習では、主たる取組内容が異なっています。また、自らが実習の目的を設定し、附属学校園およびその他の実際の学校現場で実践を行います。これらの実践を、学校教育実践研究1～4に繋げ、最終的には実践研究報告書にまとめます。

プログラム		学年	曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年プログラム	現職教員		火	実践実習4					実践実習5						
2年プログラム	現職教員	1	火	実践実習1					実践実習2	実践実習3			実践実習4		
		2	火	実践実習5											
2年プログラム	学部卒	1	火	実践実習1					実践実習2	実践実習3					
		2	火	実践実習4					実践実習5						
3年プログラム	学部卒	1・2													
		3	月・火	実践実習1		実践実習2			実践実習3	実践実習4		実践実習5			

1年プログラムは実習1～3までを免除

ディプロマ・ポリシー

上記3つのコースは、所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を取得し、次の資質・能力を備えた者であると認められ、実践研究報告書(最終レポート)の審査および最終試験に合格した者に対し、教職修士(専門職)を授与します。

- 一人ひとりの児童生徒のニーズを理解し、的確に対応できる能力
- 学級・学校の機能をより向上させるマネジメント能力
- 高い実践力を持ったスクールリーダーとなれる資質
- 優れた授業実践力と適切な教科指導力

子ども理解・特別支援教育実践コース



本コースでは、子ども理解や特別支援教育の視点から、一人ひとりの子どもを大切にしたい、子どもたちの可能性を伸ばしたいという思いを持ち、教育相談や障害もしくは障害の可能性のある児童生徒の教育について関心のある人を求めています。

「特別支援アセスメント事例研究」「発達と学習の心理学」「学級集団づくり・ソーシャルスキル教育の指導法」などのコース独自のカリキュラムによって、子どもたち一人ひとりの実態と教育的ニーズを的確に把握し、適切な指導と支援を行うことができる高い専門知識と実践力を持つ教員を養成します。

子どもたちの発達の実態や特性は、一人ひとり異なります。しかしながら、集団での関わりの中ではつい「させなければいけないこと」「させてはいけないこと」などに目が向かいがちになることも多いのではないのでしょうか。教師が子どもたちの特性を適確に把握する力や指導の技量を伸ばすことにより、声掛けや接し方を変えることができます。そのことは、集団の中にあっても、一人ひとりの子どもたちが「自分」の良さを意識し、その力を活かしながら、自分の所属する集団をより良くしていきたいという意欲にもつながることでしょう。

本コースでは、子どもの持つ可能性を引き出す教師の力や、不登校や生徒指導上の諸課題、障害のあるもしくは障害の可能性のある子どもの障害実態や発達に関連した諸課題などそれぞれのニーズや課題にあった教師の対応力を養います。

専攻共通科目

- 学習指導要領と教育課程(初等、中等)
- 授業研究の理論と実践
- 特別支援教育の授業・教育課程論
- 教育の情報化の研究と実際
- 児童生徒の理解と方法
- 教育相談の理論と実際
- 特別支援教育の心理学
- 学級経営と学校経営の理論と実践
- 教職実践協働運営演習
- 教員の資質と職務
- 特別支援教育の基礎理論
- 教職実践の省察と事例研究
- 学校教育実践研究

コース科目

- 生徒指導・キャリア教育の方法
- 学校カウンセリングの実践法
- 教育心理学の応用と実践
- 特別支援教育のシステム論
- 特別支援アセスメント事例研究
- 発達障害児の理解と支援
- 特別支援教育の生理・病理学
- 肢体不自由児の理解と支援
- 病弱児の理解と支援
- 重度重複障害児の理解と支援
- 特別支援学校・学級経営論
- 学級集団づくり・ソーシャルスキル教育の指導法
- 学校の危機管理

実践研究報告書(最終報告書)のテーマ例

- 高等学校におけるジェンダー教育実践に関する研究－生徒及び教師のジェンダー観の変容に着目して－
- 令和の日本型教育に求められる多面的なアセスメントによるプロアクティブな生徒指導の実践と考察
- 幼小接続における「気になる子ども」への支援－小学校就学を見据えた幼児教育の実践－
- 特別支援学級での学びを活かす交流及び共同学習にするための通常の学級における授業の工夫について
- 特別支援学校における学習内容の般化を促す指導の在り方－般化促進技法を用いて－
- 盲学校専攻科に在籍するADHD生徒への発達支援－ホームルーム活動を軸にした生徒理解と自己理解－
- 障害の重い子どもの実態把握とそれに基づく指導の在り方に関する実践研究

学級経営・授業実践開発コース



本コースは、活力ある学級を作り、効果的な授業を
実践できるとともに、適切な教育課程を編成する力、
授業を改善する力等を備えた高い実践力を持つ教員を
養成します。また、地域社会との連携、同僚との協働
など、学校内外をとりまく様々な関係者とのコミュニ
ケーション構築を積極的に推進し、学校教育を総合的
にマネジメントできる力を持ったスクールリーダーを
段階的に育成していきます。

このような人材育成を目指して、専攻共通の授業科
目や学級経営、生徒指導、各自の研究課題に即した実
習科目を解説しています。また、当コースの独自科目と
して「学級経営における人間関係の形成」、「教科経営
の実際と授業分析・評価」、「道徳教育の理論と実際」、
「ふるさと教育と総合的な学習」等の授業を開設してい
ます。さらに、本コース院生が主体的に取り組んでいるワ
ークショップ型のセミナー「クロスセッション」では、現
職教員学生と学部卒学生が共修・協働し、研究者教員、
実務家教員も一緒に参加して、学生が自らの教育実践
研究について途中経過を報告したり、報告について他
者と議論したりすることで、より高い実践的力量的形成
に努めています。

そうした座学で学ぶ理論と実習科目を通じた実践を
往還しながら、(1) 児童や生徒の学びの実態を十分踏
まえて教育実践を省察し、(2) 児童・生徒の学びに合
わせて学問的理論や知識を再構築し、(3) 教育内容や
教育方法を改善・開発するという手順を踏んで、自ら
の研究課題に即した実践研究を行います。理論と実践
を積み重ねた研究は、修了時に「実践研究報告書」と
してまとめます。

専攻共通科目

- 学習指導要領と教育課程(初等、中等)
- 授業研究の理論と実践
- 特別支援教育の授業・教育課程論
- 教育の情報化の研究と実際
- 児童生徒の理解と方法
- 教育相談の理論と実際
- 特別支援教育の心理学
- 学級経営と学校経営の理論と実践
- 教職実践協働運営演習
- 教員の資質と職務
- 特別支援教育の基礎理論
- 教職実践の省察と事例研究
- 学校教育実践研究

コース科目

- 学級経営における人間関係の形成
- 教科経営の実際と授業分析・評価
- 教材論と学習指導の実際
- カリキュラムの理論と実践
- 道徳教育の理論と実際
- ふるさと教育と総合的な学習
- 人権教育の理論と実際
- 福祉教育の理論と実際
- 国際理解ワークショップ
- 複式学級の教育と実際
- 学校の危機管理

実践研究報告書(最終報告書)のテーマ例

- 小学生における非認知的スキルの育成・学校におけるICT機器の効果的な利活用の促進 -ミドルリーダーとしての取組を通して-
- 複式教育の間接指導における協働的な学びを促す教師の手立て
- 学習意欲の向上に繋がるゲーミフィケーション教材を用いた授業の実践及び評価
- 小学校におけるがん教育につながる学びを目指した自他の健康と命の大切さを育む学びのデザインと実践
- 高等学校数学科における言語活動を充実させるための教師の手立てについて
- 授業内外における教師の伴走型支援の在り方 -学級の心理的安全性の視点から-

教科授業実践コース



本コースは、教科教育、教科内容および児童・生徒に対する深い理解に基づき、各教科の授業で効果的に指導することができる高い授業実践力をもつ教員を養成します。

そのため、必修の授業「教科の指導と評価」「教科指導におけるカリキュラム・マネジメントと情報活用能力の育成」をはじめ、各教科の内容学および指導法に関する科目が多数開設されています。いずれも少人数クラスできめ細かい指導が行われ、専門分野の理解の深度を図るとともに、各自の授業実践に活かせるよう、理論と実践の往還を図っています。指導体制としては、一人の学生に複数の指導教員を配置して実践実習を実施します。まず「学校

教育実践実習1～3」で児童・生徒に関わる知見を深め、次に「学校教育実践実習4・5」で教科の授業を数多く実践します。

本コースの「学校教育実践実習4・5」では、各自が設定した課題に沿って組み立てた教科の授業を実践します。新学習指導要領に応じた授業の工夫や、新しい社会の変化に応えた授業、生徒が主体的に学ぶ工夫など、各教科の課題解決に向けて「学校教育実践研究3・4」で検討し、確かな授業実践力を身につけていきます。その成果は「教育実践研究フォーラム」や「実践研究成果発表会」で発表し、内外からの助言指導を元に、今後の研鑽に繋げています。

専攻共通科目

- 学習指導要領と教育課程(初等、中等)
- 授業研究の理論と実践
- 特別支援教育の授業・教育課程論
- 教育の情報化の研究と実際
- 児童生徒の理解と方法
- 教育相談の理論と実際
- 特別支援教育の心理学
- 学級経営と学校経営の理論と実践
- 教職実践協働運営演習
- 教員の資質と職務
- 特別支援教育の基礎理論
- 教職実践の省察と事例研究
- 学校教育実践研究

コース科目

- 教科の指導と評価
- 伝統的言語文化に関する教科内容研究法
- 社会科・地理歴史科教育の理論と方法(初等)(中等)
- 理科授業設計
- 情操を育む音楽活動実践研究
- 美術の教材開発
- 身体運動の理論と実際
- 環境とエネルギーの教育展開
- 家庭科授業の研究と開発
- 授業のための英語文化理解など

実践研究報告書(最終報告書)のテーマ例

- 小学校外国語活動における学級担任の不安を軽減するための工夫
- 中学校外国語科(英語)における「社会的な話題」に関する英作文指導
- 中学校外国語科の話すこと(やり取り)における適切な言語材料と言語活動を効果的に関連づける指導の手立てと実践
- 中学校音楽科教育におけるICT機器の活用可能性
- ICTを適切に活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に繋げる理科授業の実践
- 高等学校生物におけるメタ認知を活性化する授業デザインとその効果
- 美術科教育における創造性の育成について



○管理職養成コース



アドミッション・ポリシー

管理職養成コースは、入学者に次の資質・素養を求めます。

- スクールリーダーを目指す現職教員で、自己の能力開発と学校教育の充実・振興に貢献する意欲を持っている。
- 児童生徒の発達や教育に関する知識を持ち、学校教育の現代的課題解決への意欲がある。
- 学校教育に関する経験と実践力を有し、高度な倫理性とコミュニケーション能力がある。

カリキュラム・ポリシー

管理職養成コースは、「長崎県 校長等としての資質の向上に関する指標」を踏まえ、以下の資質・能力を育成するカリキュラムの編成、学修方法、学修支援を行います。

- 学校教育のミッションと教育をめぐる国内外の動向を深く理解するとともに、確固たる教育理念を培う。
- 学校教育の諸課題と子ども・保護者・地域の実態を把握したうえで、自校のビジョンを形成し、実践・検証・改善する資質・能力を育成する。
- 保護者・地域・関係機関等と連携し、学校内外の資源を有効に活用しながら「社会に開かれた教育課程」を実現する資質・能力を育成する。
- 学校安全の確保へ向けた安全管理・危機管理を組織的に展開する資質・能力を育成する。
- 教職員を適正に評価し、その能力や課題に応じて指導することを通して、一人ひとりの力量形成を図る資質・能力を育成する。
- 特別支援教育の理念を理解するとともに、すべての児童生徒の発達を支援する学校教育を組織的に展開する資質・能力を育成する。

ディプロマ・ポリシー

管理職養成コースは、所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を取得し、次の資質・能力を備えた者であると認められ、実践研究報告書（最終レポート）の審査および最終試験に合格した者に対し、教職修士（専門職）を授与します。

- 高い実践力を持ったスクールリーダーとしての資質
- 学校教育の現代的課題を解決する実践力
- よりよい学校組織を構築するマネジメント能力
- 一人ひとりの児童生徒の実態に応じた的確に対応できる教員を育成する能力

講義

管理職に必要な資質・能力を高めることができるプログラム

学校組織マネジメント演習（通年）

組織開発についての文献の理解をベースに、学校現場の問題や管理職としての対応策等を、ディスカッションをとおして明らかにしていきます。実態（問題）把握のためのデータ収集と分析法も学びます。



リーダーの役割と資質（前期）※2

リーダーの役割と資質の理解に向けて、国内外の教育をめぐる動向を多角的に学び、それをこれまでの経験に照らして考察することで、自らの教育理念を問い直し、鍛えていくための授業です。「学び続ける」管理職としての在り方についても学ぶことができる貴重な機会となります。

実習

附属・公立

学校教育実践実習 5

●期間

教育学部附属学校・園

各3日

公立学校（校種毎）

各3日（計90時間以上）

学校経営総論（前期）※1

／学校危機管理の理論と実践（後期）※2

長崎県の様々な分野をリードする方々のお話を聞くことができ、「育成指標」の観点から学校経営について考えることができます。また、学んだことを咀嚼し、自分の言葉に起こしていく作業は、管理職として学校現場で何ができるかを、具体的に考えることができ、資質を向上させてくれます。

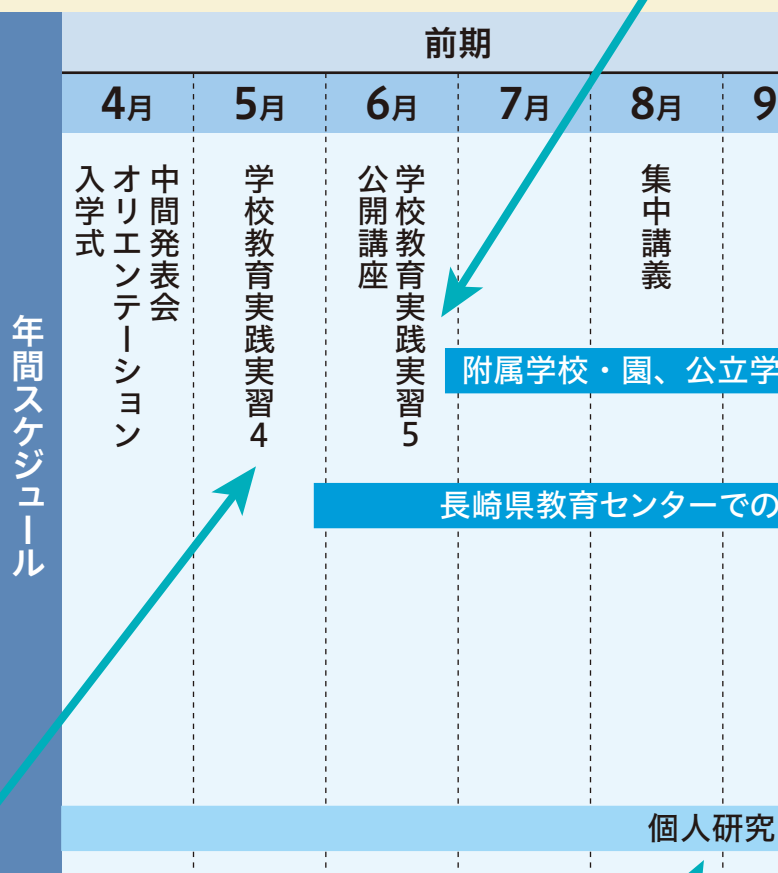
講義タイトル

- ・「長崎県の実行政施策」（県教育庁義務教育課 課長）
- ・「PTAと学校経営」（元日本PTA全国協議会会長）
- ・「最新の学校危機管理事案」（県教育庁 児童生徒支援課）
- ・「リーガルマインドからみた学校教育」（長崎県弁護士会 弁護士）
- ・「高等学校における学校経営」（長崎県立長崎東高等学校 校長）など

※1：令和元年度「学校経営総論」及び「学校教育実践実習4」は、教職員支援機構の助成を受け実施しました。
詳細は <https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/03/k-2019.pdf>



※2：「リーダーの役割と資質」「学校経営総論」「学校危機管理の理論と実践」は、長崎県教育センター管理職研修選択講座として、長崎県内公立学校管理職等へ公開しています。



実習

長崎県教育センターにおける職員研修について
実践的に学ぶプログラム

学校教育実践実習4 ※（県教育センターでの実習）

●参画講座

- ・新任校長研、新任教頭研、ミドルリーダー研、中堅研等から3・4講座（計90時間以上）

●研修内容

- ・各講座の企画段階から参画し、県の施策や指標を踏まえた学校経営、職員研修の重要性を理解できます。併せて、県の施策、学校教育目標を具現化するための視点、手立てを学ぶことができます。
- ・各講座において、指導助言や協議のファシリテーター役を担う経験を通して、ファシリテーターとしての心構えやスキルだけでなく、職位や世代別の視点や認識の違いを俯瞰的に考えることができます。

実践研究報告書の作成に向け、

“学校教育実践研究”は、大学院にあたります。ここでは、組織開発や人学校経営において自分が詳しく研究したい、1年をかけて追究していきます。のような研究が行われてきたのかを研籍を通して学んだり、附属学校等での管理職にインタビューをしたり、目的で調査研究を進めていきます。

研究を進めるにあたっては、大学教数で協働的に進めていくので、安心して研究に取り組むことができます。

校の管理職から直接学ぶことができるプログラム※3

(附属学校・園及び公立学校での実習)

●内容

- 各校の実態に応じ、以下のような内容の実習を行います。
- ・管理職による登下校指導、授業参観、会議・研修への参加
 - ・管理職の参与観察及び講話
 - ・学校経営案や講話の作成、授業参観後の指導助言の方法の検討

※3：令和2年度「学校教育実践実習5」は、教職員支援機構の助成を受け実施しました。

詳細は <https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp/wp-content/uploads/2021/04/houkoku-2020.pdf>



実践研究報告書(最終報告書)のテーマ例

- 「活力ある学校」づくりへ向けての組織マネジメントに関する研究
- 日常的に教員育成を図る校内組織の構築に関する研究
- 地域と共にある学校を実現する管理職の働きかけ
- 学校の教育力を高める人材育成に関する考察
- 創造的な学校をつくる授業研究の在り方
- 地域や家庭との連携・協働によるカリキュラム・マネジメントに関する考察
- 学校経営方針の共有を図る管理職の具体的方策に関する研究
- 「チーム学校」づくりのための組織マネジメントに関する研究
- 持続可能な組織力を培う学校組織マネジメントの在り方に関する研究
- 初任・若手教師の育成を中核にした育ち合う組織作りに関する研究

1年間の学びの集大成を
仲間と共有するプログラム

教育実践研究成果報告会

年間を通して、各自が取り組んだ研究を発表します。(発表・質疑20分)

参加者 教育委員会及び教育センター職員、
実習先教員、大学教員、院生、
一般参加者他



講義外での学び

●院生室における学び

管理職養成コースの院生が、「子ども理解・特別支援教育実践コース」、「学級経営・授業実践開発コース」、「教科授業実践コース」の3コースの部屋に分かれて入り、講義内容について議論を深め、また、実習での授業づくりのアドバイスをしました。



ゼミ形式で個人研究を深めるプログラム

おけるゼミに
材育成など、
たい課題につ
これまでにと
究論文や書
実習の中で
に応じた方法

員も院生も複
て充実した研



在学生・修了生からのメッセージ

かけがえのない出会いを

山口 義弘 さん

子ども理解・特別支援教育実践コース

3年プログラム

在学生（令和6年度入学）



私は、3年プログラムという形で特別支援学校の免許を取得しながら、教職の専門性と実践力を備えた教員になりたいと考え、子ども理解・特別支援教育実践コースで学ぶことを決意しました。

教職大学院の一番の魅力は現職教員、ストレートマスター、教科、学校種を問わず、さまざまな経験や考え方を持つ院生が対等な関係で学び合えることだと思います。理論を学ぶ授業や事例研究でのディスカッションはもちろん、院生室での何気ない会話も全て刺激的です。

進学してから、学部時代に抱いていた漠然とした理想の教師像や教育観が明確になりつつあります。それは、教職大学院は、教育に対して高い意識をもつ人たちが多く、互いに支え合い、高め合えることができるからではないかと思っています。

このように得られる知識や経験は多岐にわたり、自分の視野を大きく広げてくれます。志を共にする仲間と切磋琢磨しながら学びたい方は、教職大学院で学んでみてはいかがでしょうか。

大学院での学びが力となる

濱崎 友樹 先生

学級経営・授業実践開発コース

2年プログラム

令和6年度修了生（現 時津小学校教員）



変化の激しい現代社会における教育的なニーズに 대응していくには、私自身の経験だけでは不十分だと感じるようになりました。「より深く子どもたちと向き合うために理論的な裏付けを得たい」、「広い視野で教育を考えたい」という思いから、大学院で学ぶことを決意しました。

入学後は、これまでにない視点や出会いが私を待っていました。現職教員でありながら、「実習生」として他校で学ばせていただく経験は非常に新鮮で、子どもたちの微細な言動や、友人関係、教師との関わり方など、これまでに幾度も見落としてきてしまったであろう多くのことに気付くことができました。こうした気付きは、日々の指導に対する私自身の見方を大きく変えるきっかけとなりました。

また、各分野の専門家である教授陣による、理論と実践をつなぐ唆に富んだ授業や助言は、毎回大きな刺激になりました。教育学、心理学、特別支援教育といった幅広い視点から学び直すことで、実践に対する深い裏付けが得られたと感じています。

さらに、同じく現場で奮闘する教員仲間や、教育への熱意をもつストレートマスターの学生の方々との意見交換も、自分の考えを磨く大きな機会となりました。

大学院での学びは、現場に立つ今の私を支える確かな力となっています。「自分なりの答えを探してみたい」と感じている先生方に、ぜひ大学院進学をおすすめします。

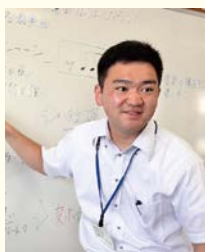
教育の本質に向き合う

出口 大樹 先生

教科授業実践コース

2年プログラム

令和5年度修了（現 大村市立西大村中学校）



教職大学院での学びの時間は、教育における最新の動向を知るだけでなく、「教育の不易」にもしっかりと向き合う貴重な機会となりました。私は学部生の頃、「このまま教壇に立ってよいのだろうか」という不安を強く感じており、教科の専門性を高めたいという思いから大学院への進学を決意しました。教科授業実践コースでは、まさにその専門性を深める充実した学びを得ることができましたが、それにとどまらず、「教育とは何か」「なぜ教科教育が必要なのか」といった、教職大学院だからこそ向き合える本質的な問いに取り組むことができました。

近年、学校現場が直面する課題は年々多様化・複雑化しており、学校教育が担う役割も広がり続けています。そうした中で、教育の「流行」や最新の方法論を学ぶことは重要ですが、それらの根底にある「教育の目的」や「教育の本質」について考えることこそ、教育者としての成長につながっていると私は感じています。

大学院での学びは、こうした考えを深め、自らの教育観を築き直すための土台となりました。学部卒業生や現職教員、さまざまな分野に知見を持つ大学教授など、この場での出会いのすべてが自分自身の視野を大きく広げてくれました。そして、そのような出会いを通して、新たな自分とも出会うことができました。ぜひ、大学院生活を通して多くの出会いと学びを得る機会を実感してください。

いつだって学べる 誰だって学べる～学びの往還～

濱辻 元子 さん

管理職養成コース

1年プログラム

在学生（令和7年度入学）



これからの予測困難な時代をより良く生き抜いていくために、子どもたちにはどんな学びが求められているのでしょうか。管理職として学校運営に携わる中で、子どもたち一人ひとりの「学びに向かう力」の育成が重要であると考えてきました。この「学びに向かう力」を育むために、先生たちが自信をもって授業を構築できる学びの環境を整え、子どもたちが生き生きと学ぶことのできる学校づくりを追究したいと大学院で学ぶことを決意しました。

大学院の講義は、これまで現場で実践してきたことを省察したり、ディスカッションを通して多様な考え方に触れたりすることで、深い理解や知見を得ることができます。また、附属4校園や公立校での実践実習では、現職の管理職から学校経営や様々な教育課題への対応について、直接学ぶことができます。

また、大学院では、他校種や他教科だけでなく世代を超えた仲間と学びを開き合うことで、新たな気づきもたくさん生まれています。「学び続ける教職員」として、現場での課題や学びを大学院でより深く追究してみませんか。新たな発見があなたを待っています。

◆入試情報（日程）

大学院入試は9月下旬・11月下旬になります。

詳しくは、教育学研究科のホームページの「入試情報」をご覧ください。

教育学研究科(教職大学院)入試情報アドレス

<https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp/examination/>



教職大学院 Q&A

Q 現在、教員免許を持っていませんが、教職大学院へ進学できますか。

A 本教職大学院では、教員免許を取得していない人が取得を目指す、3年履修プログラムを設けています。3年間で専修免許状が取得できます。ただし、子ども理解・特別支援教育実践コースへ進学し、特別支援学校教諭免許状の取得を目指す人は、基礎となる幼稚園、小学校、中学校、高等学校のいずれかの教諭一種免許状を取得済みである必要があります。

Q 現在、小学校の教員免許を持っていますが、英語教育に興味があり、中学校・高等学校の英語の教員免許を取得したいと考えています。どのコースに進学したらよいでしょうか。

A 中学校・高等学校の英語の教員免許を取得したい場合は、教科授業実践コースへ進学してください。他のコースより英語教育に関連した授業科目が揃っています。また、実習も中学校あるいは高等学校で行うことができ、充実した指導が受けられます。

Q この大学院教育学研究科を修了し、教員になろうとすると何か優遇措置がありますか。

A はい。自治体によっては、教職大学院の修了者に教員採用試験の一次試験の免除などの措置をとっているところがあります。詳しくは、採用試験を受けようとする自治体にお問合せください。

Q 教員採用試験に合格し、大学院教育学研究科の入試にも合格しました。この場合、大学院入学は断念し、教員になった方がよいのでしょうか。

A 多くの自治体では、本研究科のような教職大学院に合格した場合、修了まで採用を待つ措置をとっています。九州内の自治体では、長崎県をはじめほとんどの自治体が、教員採用候補者名簿の搭載期間を延長しています。詳しくは、採用を希望する自治体にお問い合わせください。

Q 教職大学院への進学を考えていますが、学費や生活費の面で不安があります。授業料免除や奨学金制度は、どのようになっているのでしょうか。

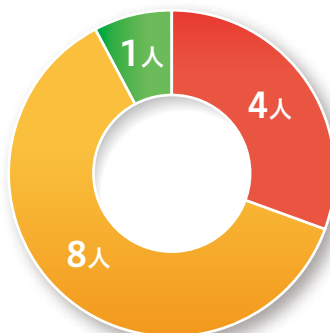
A 日本学生支援機構では令和6年度から大学院において第一種奨学金を貸与を受けた学生が修了後正規教員として採用されるなど条件を満たした場合に返還が免除される制度が始まりました。また、修了後、成績優秀者は奨学金の一部返済免除になる制度があります。また長崎大学では授業料免除制度を設けています。詳しくは、教育学研究科の大学院担当にお尋ねください。

Q 現職の教員です。現職教員の院生数は何人ですか。給与はどうなりますか。

A 年度によって変わりますが、令和7年度は1年生13名（小学校籍7名、中学校籍4名、高等学校籍1名、特別支援学校籍1名）、2年生は5名（中学校籍3名、高等学校籍2名）です。募集は7月から始める予定です（令和8年度は2期に分かれます）。なお、給与は研修扱いであれば、学校に所属している場合と同じように支給されます。

Q 修了後の就職状況は、どうでしょうか？

A 右のグラフは、令和6年度修了生（現職教員を除く）の就職状況で、教員志望の院生の教員就職率は100%です。8名の校種別は、小学校2人、中学校2人、高等学校1人、特別支援学校3人です。ここ5年間では、約9割の修了生が教職についています。



令和6年度大学院修了生
(現職教員除く)進路状況

■ 教員(正規)既合格
■ 教員(正規)
■ 公務員(行政)



キャンパスマップ 文教キャンパス



交通 アクセス

- JR長崎駅から
 - ・路面電車 「長崎駅前」→(赤迫行き)→「長崎大学」下車
 - ・長崎バス 「長崎駅前」→(1番系統)→「長崎大学前」下車
- JR浦上駅から
 - ・路面電車 「浦上駅前」→(赤迫行き)→「長崎大学」下車
 - ・長崎バス 「浦上駅前」→(1番系統)→「長崎大学前」下車
- 長崎空港から
 - ・県営バス「長崎空港4番のりば」→(昭和町・浦上経由長崎方面行き)→「長大東門前」下車



長崎大学大学院教育学研究科

〒852-8521 長崎市文教町1-14 TEL.095-819-2266
研究科サイト <https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp>



教育学研究科